美　唄

Bibai

無くした子の年を数えるようだけれど

1960から70年代の炭鉱閉山以来，減少が続く美唄市の人口が３万人を切ったことが，市の３月末速報で分かった。２月末で３万７人の人口を記録したが，転出の多い年度末が重なったせいか，３月末日現在２万９千66人で，１ヶ月で344人減を記録した。

２万人台は大正末以来で82年ぶり。転入者が増える４月末で３万人台にの可能性はあるが？昨年３月から４月にかけて305人増だったことから状況はきびしい。美唄市は三井・岩崎などを軸とした石炭産業の発展により，人口が増加した。56年には９万５千人近くを記録しピークを迎えた。

しかし国のエネルギー政策転換で63年に三井美唄炭鉱が，73年には三菱炭鉱が，それぞれ閉山。人口の流出が始まり，67年５万人，74年に４万人を切った。市では立場上，人口減は織り込み済み。自立のシナリオや策定中の財政推計に盛り込んでいる，と表面冷静をよそおっているが，市役所正面玄関ロビーにある人口ボードの２月末現在の３万７人が最後の３万人台になるかも知れないと思うと寂しい。自立元年を目指す美唄の４月末人口が３万台に盛り返すことを祈念するばかりである。

（雨田　実記）